

7月のおすすめ図書

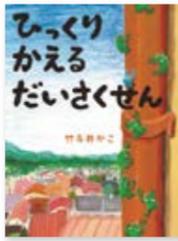
開館時間 平日・土:9:30~18:00
日・祝日:9:30~17:00
休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、
年末年始
問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512
図書館ホームページ 図書館LINE

幼児向け
パンダのおさじとせっけんパンダ
柴田 ケイコ / 作
ポプラ社



せっけんパンダは、呪文ひとつでどんなよごれもピカピカにする、不思議なせっけん。でも、使い方を守らないと大変なことに…！小さなパンダのおさじが届ける、不思議で楽しいパンダ道具のおはなし。

小学生低学年向け
ひっくりかえるだいさくせん
竹与井 かこ / 作・絵
教育画劇



晴れの日が続き、池の水も減って、このままではかえるたちの住むところがなくなってしまう!? そんな時、人間が作った“てるてる坊主”をひっくり返して、雨を降らせようと考えたかえるたちは…。ハートフルなユーモア絵本

小学生高学年向け
妖怪一家九十九さん外伝
猫ユレイの宝箱
富安 陽子 / 作
山村 浩二 / 絵
理論社



買ったばかりの車でドライブに行くことになった九十九さん一家。ところが、ヌラリヒョンパパの運転を無視して、車は勝手に動き出した!? なんと車には猫の幽霊がとりついているようで…。人気シリーズの外伝

中高生向け
障害のある10代のための困りごと解決ハンドブック
あなたがあなたらしく生きるためのヒント
野口 晃菜 / 編著・松波 めぐみ / 編著
現代書館



障害のある10代の困りごととその解決方法を、学校・友だち・恋愛・進路進学など8つのテーマにわけて掲載。障害のある先輩たちの体験談や、相談できる場所も紹介する。すべての漢字にルビ付き&さまざまな障害種にも対応

一般向け
団地メシ!
藤野 千夜 / 著
角川春樹事務所



高校になじめず休んでいる16歳の花は、おばあちゃんと、いろいろな団地をのんびりめぐって、お寿司、蕎麦、カレー、ケーキ、ラムネなど、おいしい御飯やスイーツを楽しむことに…。『ラテンイエ』連載を加筆・訂正

一般向け
おにぎりは味方です
瀬尾 幸子 / 著
Gakken



近頃は世界的にも人気のおにぎり。塩むすびから、定番の具やおそうざい、混ぜご飯を使ったおにぎり、おにぎりサンド、太巻きおにぎり、焼きおにぎりまで、いろいろな作り方を紹介。米の美味しい炊き方も掲載する。

夏季期間は木曜日も開館します

7月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 休	4	5 18時まで開館
6	7	8	9	10 休	11	12 18時まで開館
13	14	15	16	17 休	18	19 18時まで開館
20	21 海の日	22	23	24 25 休	26	27 18時まで開館
27	28	29	30	31		

※夏休み期間(7月21日から8月28日まで)は、第4金曜日を除き毎日開館

おはなし会のご案内

えほんのじかん 〈約30分程度〉

対象:幼児・小学生
日時:水曜日16:00~ / 土曜日14:00~

らっこのじかん 〈約20分程度〉

対象:0・1・2歳児
日時:第4火曜日 10:30~

場所:宇土市立図書館1F児童室
内容:絵本や紙芝居の読み聞かせ、パネルシアター、手遊びなど

※予約・参加費は要りません。
※都合により変更や中止になる場合があります。



(右)馬瀬観音堂の十一面観音菩薩立像
(左)光岩寺蔵 阿弥陀如来立像
(三春町歴史民俗資料館 HP より)

浜戸川の左岸に沿って長くのびる現在の馬之瀬町。その北東部の一面にある観音堂には、木造の十一面観音菩薩立像が祀られています。その特徴は、鎌倉時代に活躍した仏師「運慶」の流れを汲む作風とみられ、引き締まった表情や衣服のしわなどの写実的な表現、バランスのとれたプロポーションなどに優れた技術がうかがえます。本来は立派な寺院に祀られていたと考えられ、鎌倉時代、この近くにそうした寺院が存在した可能性を今に伝えています。

一方、宇土から遠く離れた福島県田村郡三春町にある浄土宗寺院「光岩寺」所蔵の木造阿弥陀如来立像には、弘安3(1280)年、宇土郡馬瀬(※1)の住人「得万太良」が作らせたことがその胎内に墨で書かれています(※2)。この像は、頭部の形や穏やかな表情、服のしわの表現などから、運慶と同じく鎌倉時代に活躍した仏師「快慶」の流れを汲む作風とみられます(※3)。得万太良という人物について詳しいことはわかりませんが、これだけの仏像を造らせた事実から、馬瀬付近を治めていた人物、あるいは財力を持つ有力商人などと考えられます。

同じく胎内に書かれた銘文から、この像は慶長4(1599)年に多良村(現長崎県雲仙市)の用林寺の住職が修理したことが判明しますが、その後、福島県の光岩寺に運ばれた経緯は不明です。馬瀬観音堂と福島県の光岩寺、遠く離れた2箇所の仏像が、ともに鎌倉時代の馬瀬と関わりがあることを示唆しています。

この像は、頭部の形や穏やかな表情、服のしわの表現などから、運慶と同じく鎌倉時代に活躍した仏師「快慶」の流れを汲む作風とみられます(※3)。得万太良という人物について詳しいことはわかりませんが、これだけの仏像を造らせた事実から、馬瀬付近を治めていた人物、あるいは財力を持つ有力商人などと考えられます。

現代の行政区は「馬之瀬町」だが、歴史上の地名として、本稿では「馬瀬」の表記で統一する。像内部につくられる空間を胎内と呼び、ここに経典などの文物が納められたり、像がつくられた由来などが書かれたりする。これらは外観ではわからないが、像の修復などの目的で解体した際に見つかることがある。



馬瀬周辺字図



肥後国絵図(慶長国絵図)
(熊本大学永青文庫研究センター蔵 一部抜粋 1605年頃か)
鎌倉時代より時代は下るが、馬瀬を取り巻く川や郡境の様子がよくわかる。

第129回

温故知新 くと学だより
中世における馬瀬の賑わい
圖文化課文化係 ☎(23)0156

紹介しました。では、これらの立派な仏像が作られた背景にある当時の馬瀬とは、どんな場所だったのでしょうか。

観音堂がある現在の馬之瀬町北東部は、浜戸川と潤川との合流地点に位置し、水上交通が物流の主役だった当時は交通の要衝でした。加えて、宇土郡・飽田郡・益城郡の3つの郡が接する郡境である点も、地政学的に重要と言えます(下図参照)。

また、観音堂周辺の字名が「京泊」である点は、かつては近くの川沿いに船着場があり、人や船の往来で賑わった場所であることを裏付けています(※4)。

※1 現代の行政区は「馬之瀬町」だが、歴史上の地名として、本稿では「馬瀬」の表記で統一する。

※2 像内部につくられる空間を胎内と呼び、ここに経典などの文物が納められたり、像がつくられた由来などが書かれたりする。これらは外観ではわからないが、像の修復などの目的で解体した際に見つかることがある。

※3 運慶と快慶は、ともに鎌倉時代に活躍した仏師。東大寺南大門にある金剛力士像の作者としてよく知られる。

※4 泊(とまり)とは、船を停泊させる港のこと。転じて、それに付随する宿場町まで含んだ地名である可能性もある。